

10  
20  
長

停  
折 1127

OFFICE OF THE SUPREME COMMANDER  
FOR THE ALLIED POWERS

10 September 1945

AG 312.4 (10 Sept 45) AG-KD

MEMORANDUM FOR THE JAPANESE GOVERNMENT

THROUGH: Central Liaison Office Number 1.

SUBJECT: Assistance to Troops.

1. Troops consisting of Replacement Battalions and Recovery Teams will land on Wakayama and Nagasaki on or about 12 September 1945.
2. Liaison Teams will arrive by airplane at Osaka and Fukuoka on or about 10 September 1945.
3. It is desired that safe-conduct be provided for the above personnel.
4. It is further desired that facilities be made available at or near the dock area of each port to accommodate two thousand persons. Hot water for showers should be available.
5. All possible assistance should be given by the Japanese Imperial Government to complete the efficient evacuation of prisoners of war by railroads to ports

in

140

0035

1127

in accordance with the schedule of United States Liaison Officers, and also in providing motor transportation from camps to trains and from trains to docks. It is desired that the Japanese Imperial Government provide Japanese Army Officers to safe-conduct trains from camps to docks. American teams should be given free access to camps and records.

6. It is desired that all possible assistance and cooperation be given in the accomplishment of this mission.

FOR THE SUPREME COMMANDER:

HAROLD FAIR  
Lt Colonel AGD  
Asst Adjutant General

141

0036

1127

A-1-0-0-2

信  
紙

高  
島

上野原直雄ノ弟家白時

1329

一  
概

九月廿五付三十分

高島安次義郎佐平(高島)

搭乗員(金谷)

同日保護書

同日又十官午後一時發着

(高島安次)

大日本帝國政府

A-1-0-0-2

A-1-0-0-2

Ltr, Central Liaison Office, Tokyo, dtd 6 Oct 45, subj "Occupation of Uenohara, Hochioji and Korfu".

AG 370.2 (FB) 1st Ind 13 Oct 1945

Headquarters Eighth Army, APO 345,

To: Central Liaison Office, Tokyo

THRU: Liaison Commission, Prefecture Building, Yokohama

1. The presence of reconnaissance parties in the above cities did not necessarily indicate that occupation troops would be stationed in these localities.

2. Depending upon developments in the situation troops may or may not be stationed in the cities mentioned. 48

hours notice will be given prior to occupation.

BY COMMAND OF LIEUTENANT GENERAL EICHELBERGER:

Copy to:  
XI Corps

D. D. COURTRIGHT  
Major, A.G.D  
Asst. Adjutant General

Vertical handwritten notes in Japanese on the left margin, including characters like '現' and '12'.

Vertical handwritten notes and signatures on the right margin.

Official stamps or seals at the bottom right of the document.

總務部長

陸軍省三三三

昭和二十年一月九日

陸軍省陸軍事務局長

鈴木九萬

陸軍省陸軍事務局長  
總裁見玉謹次毅

帝國軍司令部官「アイケハカ」中將降任期日等。  
由スレテ

「アイケハカ」中將ハ予定ヨリモ少シテ後  
レ亦月中者頃帝國去程川機ニテ五俸ヲ取及  
印五ヲ由テ之ヲ降任ニ趣テリ(案年十百五日財

外務省

陸軍省陸軍事務局長(参考照)

帝國軍司令部官「アイケハカ」中將降任期日等。

「アイケハカ」中將ハ予定ヨリモ少シテ後

レ亦月中者頃帝國去程川機ニテ五俸ヲ取及

印五ヲ由テ之ヲ降任ニ趣テリ(案年十百五日財

陸軍省陸軍事務局長(参考照)

帝國軍司令部官「アイケハカ」中將降任期日等。

「アイケハカ」中將ハ予定ヨリモ少シテ後

レ亦月中者頃帝國去程川機ニテ五俸ヲ取及

印五ヲ由テ之ヲ降任ニ趣テリ(案年十百五日財

陸軍省陸軍事務局長(参考照)

帝國軍司令部官「アイケハカ」中將降任期日等。

外務省

總務部長

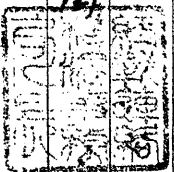
第一部長

陸軍省通令六二号

昭和二十一年一月十七日

陸軍省陸軍事務局長

鈴木九萬



陸軍省  
終連  
20.1.18  
秘書課

陸軍省陸軍事務局長  
陸軍省通令六二号  
陸軍省陸軍事務局長  
陸軍省通令六二号

第一軍司令官兼任期日一件

一月九日附拙信陸軍省通令六二号(南)一月十七日第一軍參謀  
長一語に依り、同參謀長八月二十日(日)飛行機三ヶ上海  
迄司令官 可いんがし中將ヲ出迎へ二行軍回並兼任  
一由三ヶ機改着八月二十日(日)二機二週一末一予更ナリト  
ノ下ナリ 陸軍省通令六二号 報告申進ス

外務省

陸軍省通令六二号

陸軍省通令六二号

昭和二十一年二月七日

終連  
21.2.8  
秘書課

21.2.8

0042

陸軍省陸軍事務局長

鈴木九



陸軍省陸軍事務局長

總裁 吉田 茂 殿

半回第一軍司令官兼任二由二件

半回第一軍司令官「アインハル」中將ハ予至リ少シ以テ

二月四日午後厚木飛行場ニ着歸任也

本官七日前任行也(原厚木前知事兼任一機抄、北内山

知事兼任一機抄、為西人及鎌田中將同送也)

A-1-0-0-2

0041

素之

同道者多カリシ爲余リ五ノクニシハ  
 歸路 羅馬(括弧) 謁見ス (コカイ也) (コアンリ) 五ニ謁見ス  
 同グケマシ 「カラキ」 「ニードリ」 「パンコク」 上海、北平等ヲ  
 經テ 帰任シタル由又司令官夫人及參謀長(ハイヤ) ス少將  
 夫人ハ 甚ニ 五月中 海路 参朝ノ旨 啓ケタリ  
 本官ヨリ 月三十一日 横濱委員會トシテ 會議ノ内容及生糸輸  
 出問題(「タクシ」トシテ) 會談内容) 等ヲ 説明シ 置キタリ  
 又司令官ヨリ 思シテ 陸海軍 恩給停止問題ハ 甚ク 後如何ニ  
 ナリシヤト 質問アリシニ 付 本官ヨリ 司令官 帰國前ニ 決シテ  
 画ク 五ノハ 多數 復員 軍人トシテ 大ニ 社會問題ニテ 少ク  
 取扱ハザル 儀等ヲ 危 険ナル 思想ニ 走ラスル 虞モ 多ク  
 目下 政府ニ 種々 最高司令官トシテ 向ニ 恩給停止ニ 變ルベキ 次第  
 ニ 付 交渉中ノ 由ナルガ 貴司令官ヨリモ コママサシ 元帥ニ 御  
 稟 密 報告ニ 付 以テ 疎 孔ニ 及ビト 述ベシニ 二月九日 「コラマサシ」

元帥ニ 報告スルニ 付 一 頁ヲ 添ヘト 述ベタリ  
 高司令官 帰任前 參謀長ハ 出陣ヲ 兼テ 上海ニ 赴キ 在  
 二テ 在支 参謀長 司令官 例ニ 參謀長ニ 所アリシ 横濱ナルガ 趣  
 旨 通知シ 牙八 軍司令官 部 課 報 五 任 日ヨリ 大 佐 等 籍 報  
 富士屋(ホト)ニ 付 支那、朝鮮 等 参 考 報 表 悉ク 一 百ニ 數  
 日ニ 至リ 參 謀 長 在 此 趣キ 云々

厚木第一七六號

昭和二十一年七月三日

終戦連絡中央事務局厚木出張所

所長 今井重夫

終戦連絡中央事務局

吉田 總 裁 致

厚木基地に於ける最近の聯合軍概況報告の件  
 當厚木基地に於ける現在駐屯中の空軍は上月以来或は  
 沖縄へ或は千歳(北海道)に一都轉進し漸次減少の傾向  
 がある。Air Transport Command 及 Weather Stations からも頃  
 から羽田の基地が強化され次第その方へ移動する豫定  
 ありとの又一都の噂には當基地の地盤が弱く着陸に

終戦連絡厚木委員会

適當ならす依て主力は羽田に移駐すべしとの噂が専らと  
 其の為隊内勞務者側に不安の空氣もあつたが最近種々  
 の事情から方針が変更され當基地を強化擴充すること  
 とたり Post Engineer (工作隊) に於て急遽立案の下水道路  
 水道瓦斯滑走路兵舎その他全般的に大擴張されること  
 目下間組が測量に着手して居る。斯様な次第で最初  
 部隊数も大いに取りませさす。あつたものが現在三千五となつ  
 たか之を最低として今後再び増加の傾向にあり兵力も  
 最初八千名ありしものが三月頃千五百名となり其後漸増  
 して現在三千名前後に達する。今後更に増加の傾向があるか  
 士官等の話を綜合するに施設関係は倍加され後人員  
 も六割前後増強されるものと見られる。また最近二連隊人  
 員も同立つて多くなりつゝある。

終戦連絡厚木委員会

次に蘇聯に對する微妙な動きが影響したか防務関係の司令本部S2の活動活潑となりゲート出入の取締が非常に厳重になり六月五日常事務所に給送なすりやを受けける等もこのことであつた。この件に就ては別に報告する。

六月末現在滿基地内には在るままの部隊は左の通りであるが之等部隊は大体 Army Air Base Head Quarters の統轄して居るが中には G.H.Q. 直屬のもの或は横濱の第八軍直屬のものもある。

Head Army Air Base	{ Special Services, I & E sections
Head Quarters	{ Dispensary, Canteen, Welfare, Comm. Officer
7th Air Service Group 800x	Capt. Sullivan
3rd Bombardment Group 480x	{ Temporary Major Wisbold Niter pool

終戦連絡厚木委員會

Base Quartermaster	{ Ordnance, Commissary, Supply	Major Addison
3rd Emergency Rescue Squadron, 400x		
6th Nightfighter Group		
872nd Engineer Aviation Battalion, 300x		8th Army 1st Lt. Goldberg
128th Station Hospital Evacuators Ward		
Weather Station (G.H.Q.)		Capt. Butchers
Fire Marshall		Major J. B. Hayes jr.
Base Post Engineer		" " "
31st Postal Regulation Section		
Army Air Communications System		
American Red Cross		
Air Transport Command, 400x		Capt. Eisher

終戦連絡厚木委員會



幸便

寫

A.1002

厚連秘第一七七號
昭和二十一年七月五日
終戰連絡中央事務局 所長 今井重夫
吉田總裁 殿
当出張研捜査関する件
当地は米軍航空基地として米国の對外関係の微妙なる 事情を反映して防諜の見地より司令部S2は是が警告 戒には相当神経的あるものがある。当事務局が基地に近く 旧高座海軍工廠の職員宿舍で四十八戸建の一割を成す 居る為此の区劃内に住む者の身分に付調査して居るが本官着

終戰連絡厚木委員會

1831 Ordnance Supply & Maintenance Company
616 Engineer Base Equipment, 100x Lt. Lair
585 Engineer Dump Track Company (coloured milk)
Receiver Station, AAC.S. 8th Army
"E" Troop 1st Cavalry, 250x

終戰連絡厚木委員會

任前後は委員會議員四十八名で中に海軍々人が職員として  
十名余ありS2としては職掌極一種の疑惑を持ち二月廿日  
突然事務所をサーチされたことがあつた。

当時S2はコルビン(Corbin)大尉に代りパイパー(Pepper)中尉其の  
衝に當り居たが委員會議に對し事毎に偏見疑惑の念に提はれ  
て居たのであるが偶々本宿着任早々委員會議閉鎖問題が起つ  
て以来S2附の戸田通訳は豫てよりS2士官に取り専横の振舞  
日に余りあつたのであるが好機逸せんと欲して土地の警官署  
長及請負業者が分入りS2を籠絡して委員會議を無視せんとす  
る工作をとり来たつた。

その後S2はシセル(Sisler)少尉と代つたが前任者の申送りと他  
よりの中傷もあり委員會議は出張所として夏生しをせらるるS2は  
鬼門とあつて居た五月末新任メーサー(Measer)少尉がシセルに代

終戦連絡厚木委員會

つたのであるが六月四日午後突然当事務所に来り約二時間  
に亘り机戸棚等の書類を檢閲し引揚けたが全夜八時頃  
MPを伴ひ五名にて再び来り本官等に知らぬが當直のボーイ  
に案内させ十一時頃迄綿密に書類を檢閲し引揚けた翌  
朝調べたが別に押収されたものもあつた。  
数日を置いて又田連絡官を通じてS2内横濱の派遣係  
員より取調べの結果何等疑点あつた事もあり度々自申  
入ルがあらう。

これに依つてS2の誤解も解けたものと見らるるので本官より  
メドー少尉の末訪を求め六月廿五日午後七時より官舎に  
於て約四時迄に亘り労務問題(今少尉はS2士官とると共に  
労務係を兼ね)労務者賃銀支拂改善問題に付協議  
を遂げた。後従来当事務所が米側より鬼角疑惑の眼を

終戦連絡厚木委員會

寫 倭

以て見らるるその使命を充分發揮し得たる苦衷を畢的に陳べ  
 たるところ先方は着任早々當事務所を二回に亘りてサチテた  
 非礼を謝すと共に一莫の疑もあかりなく旨答へた、本官着任以來  
 苦節四月の苦闘を陶陳せるところ充分了解するに目を述べた  
 りて本官もさきづり困通訳の存在が各方面にフクシムを起す  
 一因ある實を指摘し先方の注意を喚起して置いた  
 右の如くして数ヶ月に亘りて當事務所に對して抱いて居た疑  
 惑も解けたるもの如く爾末伊豆伊東其他へ移る共々感  
 情全く融和するに至るまで次第である。

終戦連絡厚木委員會

0053

厚木秘第二八六号

昭和廿一年七月廿二日

終戦連絡中央事務局厚木出張所

所長 今井重夫

終戦連絡中央事務局

吉田總裁殿

厚木基地部隊の動靜に關する件

本件に關しては本月三日厚木連秘第一七六号拙信を以て概況  
 序報告の通りなる如き其後 872 及 Emergency Aviation Battalions は  
 解散し其の大部分は本国に引揚り其の兵舎には本月廿五日

Heavy Equipment School を移す出来た

次中過日米及 Civilian Personnel Officer 等と少尉の内談せる如

終戦連絡厚木委員會

0054

に依るに近く基地司令部たる The Air Service Group が江古田飛行  
 場に移動する内命が出で居り多分八月十五日頃になるべくとも  
 趣あるを以て廿九日司令部に赴きたる際 Supply Officer アーレン少  
 佐及副官ライマン少佐に確かめたるに全隊八月十五日江古田基地  
 に移動することに決定せる由にて残るは "E" Troop, 1st Cavalry  
 及び其の他の十部隊のみであると云ふ然らば如何なる部隊が  
 交替するか候したるも今のところ分明せしがと言明を避けたが基地  
 内の噂を綜合するに *Walt* が来るべくともいふ説有力ある一説には *Walt*  
 Transport Command が中心となり今後貿易復活の曉当基地が  
 唯一の外国人出入空港として発足すべくともいふ見解も本件に關  
 横濱事務局長登貴總裁宛横濱連隊五四八号の次第も  
 あり蓋然性多きやに思料せらるる次第である。

本信宇送附先は横濱終連事務局長

終戦連絡厚木出張所



厚連秘本八九七

インテリ

厚連秘本八九七  
 インテリ  
 同の事其の他部隊の動向の件  
 吉原  
 東一ノテ  
 6th Night Fighter & 3rd Emergency Squadron  
 一  
 Post assignment  
 終戦連絡厚木出張所





外務省總務局  
資料課長殿

英文ライブラリー移管に對し、領收書送付の件  
本年九月貴局より一時借用中の英文ライブラリー（アンダーウッド）  
と、臺北移管願の度、爰に領收書貳通御送付す。可然御  
取計願ひ度い。



文書課長

文書課發送日

主

普通第二一〇號

昭和二十一年八月九日附屬

主 任 吉田

淨書

正校(原稿)

(淨書)

昭和二十一年九月七日起草

多田 吉田

發信用執務用		受 信 人 名 中央事務局 吉田 總裁	先 付 送 寫 基地状況報告の件	名 件 基地状況報告の件	公 信 案
主信					
附 甲					
乙					
丙					
丁					
備考		發 信 人 名 吉田 長	名 件 錄 記		外 務 省

基地部改の移動に關しは八月五日附屬應秋第一九七號に於て即報告。  
 通りなごかその後、状況は左の通り存りである。

(1) 31st Postal Regulating Section 約四ヶ月前八月三日羽田へ移動を完了し

(2) 128 Station Transport 約四ヶ月前八月三日本隊と合流し

(3) 1st Air Service Group 約一週前同任の同様の移動を開始し予定である

電 信 案

外 務 省



電信案

〔旧A.下の跡目連入部隊より Post Company 四百名の来駐あり  
 主として船舶事務を司る。 (Captain. T. ...)  
 〔基地内に約三百名の連入部隊の来駐あり。訓練を毎日受け  
 訓練終了と共に他に移動し又同部隊再駐し訓練を続ける。  
 移駐あり。〕  
 〔第一軍より視察が来りてこの Galvan 中佐の言に依りて後続部隊と  
 20 Engineers Training Unit 部隊をこの基地に駐せしむ。〕

外務省

43rd Engineer Battalion (Rear Regt. Singapore)

以上、他現在より移動する部隊を駐せしむる部隊は現

電信案

基地部隊は夫々梱包を行つてより早晚移動は開始せしむるものと  
 予想せしむ。基地全体の空気をよく後大分整備する事、特にこの部隊は  
 後続部隊に備へ使用の見地を以て之を為す事、取急しなむ。(後述者  
 務務課の改修照)

外務省

一、方格、状況、概況

基地部隊移動に依り得る立上り、虎丸に方格者、先般第一軍より

視察に来りし、

後継部隊の要領区

視察に来りし、

伊佐より

現在、教場中の

方格者は、下米

確保し、

申出、

備せしに依り、

平帰し

と、

又、

部隊移動に依り、

往來し、

部隊に使用せ

り、

方格者、

部隊移動に依り、

随伴し、

移動する傾向認め、

A.P.C. に

就き、

難波、

方格者、

中、

電信案

外務省

外務省

状況、

後、

方格者、

移動せし、

今後、

移動、

方格者、

移動が、

相違行は、

思ふ、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

方格者、

電信案

外務省

電信案

外務省

備中 其地正作隊は力動但金は未だに未なり協泊的の自之  
 向上 他隊の強化に如何の努力を盡すに及ぶるは是也  
 向きのありと思はれし事は或るべきなるが故であるか  
 厚大地已進駐僅が動但金は組織的強固等弱保不純にし  
 今後ノ動向は相違に待たば可なり所業と思ふべき也

0067

電信案

外務省

方動但金は二、存在するに味在り其は同種隊の同類隊は  
 亦方備中隊のありしを今更ニ再行すべし申す事なり  
 為之に相違無慮を期すの要あり為現在準備中なるに過敷  
 パール勅方の投託が影響者百三六の常備化申す事あり  
 現時約八百二十人の常備者あり

0066

新に捕甲とる者  
友記

一、通洋移動状況

各地に散在する通洋者、貨物運送等、為大巾の整理を行つた事は、四月十日附号迄著者一〇七号附号、通洋者の移動状況に於て、常ニ試験と再三に亘り行つた通洋の向上を計り、果つてか且、通洋の食糧事情、悪化等、影響せしむるに、漸次、面々加ふる一方、基地部隊、移動に随伴移動、  
 五十七号附号、初稿に及り、通洋の状況、  
 外務省

電信集

外

省

少シの増員に、會後、現在、横田等へ移動せしむるに、意を注ぎ、あり

本後、相違、減少、  
 外務省

本後、行方、不明、尚整理、必要、あり、  
 外務省

本後、行方、不明、尚整理、必要、あり、  
 外務省

本後、

本後、行方、不明、尚整理、必要、あり、  
 外務省

本後、行方、不明、尚整理、必要、あり、  
 外務省

電信集

外

省

リ且、行路の未定と、是に、移動、状況、  
 外務省

大岡親矩 佐原春一 糸島喜三郎 志田貞一 坪田  
 元成 所田吹 佐野武二 柏田彦亮 増岡忠佐三門  
 辻忠雄 生田木上勇 鏡木三郎 鏡木玄 西本千之 若林  
 辰口 夫 神野三郎 (以上長瀬郡布衣野助)  
 四月以降 退職也。若日 鏡木利一 伊波武 園田貞悦  
 多田本 壯吉 郎 土川俊一 志田三三夫 神田晴雄 紀田  
 志不郎 増本興四郎 山本康布郎 金子清吉 金井  
 三浦 藤川杉三 原進 中川有吉 梶田マサト 園田

電信案二

外務省

(新採用)

0071

大竹隆雄 水野三郎 今井の根 柴田正雄 岡田出殿  
 岡田三三 山本憲太郎 西川正光 西達常太郎 木路  
 祥夫 福島達雄 河野隆夫  
 (其地方の初会に在座) (其地方の初会に在座) (其地方の初会に在座)  
 (其地方の初会に在座) (其地方の初会に在座) (其地方の初会に在座)  
 一夫 野ノ尾中 初田正雄 興得正慶 不改義雄  
 (其地方の初会に在座) (其地方の初会に在座) (其地方の初会に在座)  
 (其地方の初会に在座) (其地方の初会に在座) (其地方の初会に在座)

電信案

外務省

0070

A.T.C.と若に羽田  
移動して山崎へ

<p>に 輝の十は九にしろ其地即改り移動に伴い移動せし通符</p>	<p>河横田の改道せし有連改改大田概入野詳にしろ</p>	<p>高田と知能道の子山と骨あり</p>				
---------------------------------------	------------------------------	----------------------	--	--	--	--

電信案

外務省

厚連蕃第二二〇號

昭和二十一年九月三十日

陸軍省陸軍部陸軍局厚木出張所

所長 今井重夫

統戰連絡中央事務局

總裁 吉田 氏 殿

基地概況報告の件

本月七日附厚連蕃第二二〇號 歸地信に關し

其後の各基地概況の因り

一 部隊の移動は豫定通り概一進行せず後續部隊関係の

for Col. Durkam, Capt. May, Sergeant Parsons and

Officers of the Capt. Dean 等は横濱より或は司令部

外 務 省

のコンクリートハウスに泊り込み未だ準備に奔走して居るが Durkam  
 に對し貴官より各基地に現在以上の塔務者が必要とするに當り  
 引止方要請があったに於て日遷延し後各塔務者引止と困難に  
 なるが新部隊の到着と一日も早く待たせしむるに Labor Officer  
 の派遣方を待望する旨述べたるに現部隊が去る迄未だ準備  
 せず又塔務者は凡中各種類に涉り必要とするに答へたるに  
 Capt. Dean の語に依れば現在基地に在る黒人部隊四百  
 名は十月一日より来る黒人部隊六百名(隊長の Capt. Loggins)  
 と二三ヶ月訓練を以したる後他は移動するものにして主力正規  
 部隊は幹部七十八名塔務以下約七百名塔務其他八百名合計  
 約千五百名に由る。

一 後續部隊たる Engineer Training Unit はトレーニングを爲すと共に  
 基地と本邦最大の空港とを繋ぎ通すの現行滑走路の西側に

外 務 省

新に五割を引進はし新設せんとすものにして其他基地内之  
 大掃掃(掃掃部隊は 1st Army Cavalry Base camp  
 稱し二百名の掃掃者之使用九月十日(開始)を以て基地を全部  
 緑地化するもの Post Engineer Landscaperman 亦もこれに  
 目下作業中であり基地内外の道路は敷原地及東首道路命が  
 P.D.に依り進行中である掃掃路にはは間地が掃細は測量之意  
 がせり此の居る第八軍の Engr. Const. Division Major Holmes  
 の紹介にて者次に對し名の監督を便宜供與方掃掃隊の測量  
 監督にあり居る

一其後の部隊移動状況は等々此は

- (1) Heavy Equipment Section は九月十三日名古屋(同大野の  
 移動)始の一三週間にて完了のや
- (2) 3rd Engineer of B.D. は一三週間に移動完了のや

外 務 省

- (3) 6th Air Engineering Squadron, 6th Material Squadron  
 は共に十日横田へ移動完了

- (二) 3rd Bombardment group の日土航空士は九月十日にて

Hq. 及 Ptk. Sq. 横田へ移動完了

- (ホ) Red Cross は十九日應開鏡のま此の度 Okazaki Gunbar  
 (Capt. Overstreet) と一と再開

一第五航空隊は進駐以來二年余者基地に在つて者所て一七の掃掃  
 隊の連絡を保持し、今日に至りたが一應者地ま去る (Capt. Dwyer  
 の言に依れば基地攻撃の上は航空隊は再び戻すべし) といふことなり  
 たるを以て九月廿日夕陽を過る光鶴園に於て當所主宿として  
 Farwell Party を催せり本官より別添り如き挨拶を述べ  
 可令官より航空中隊へ官民協力せり此所期の目的を達成す  
 るを得たりは感謝に堪へざる上日の掃掃隊の掃掃に際し

外 務 省



更散會した

出席者五名通り

Col. Nuttall (Com. Officer)

Lt. Col. Gates

Maj. Hayes

Maj. Addison

Maj. MacLaughlin

Capt. Sorrello (Adj.)

Capt. Sullivan

洗連側

今井所長 福野事務官

春日連絡官

日備勤務署 関戸署長

外務省

厚木基地工作隊 片桐事務官  
 綾瀬 浩吉 大和 海老名 各所長  
 業務代表 難波組社長 副社長  
 一、 業務状況

労務供給業者を排除し日備勤務署に切替おにけは厚木所  
 報告より市前工作を多し来たが九月十日より試験的交  
 施に際し三日鶴巻温泉光鶴園に難波組他八業者代表  
 者及幹部を招待。洗戦以来挺身協力。労務供給に尽力した  
 功績に酬い感謝慰労の意を述べ、又九月、土日の両日に渡り  
 関戸勤務署署長と共に各業者代表と訪問挨拶を為し  
 此上共側面的援助を請うた。知事命令に當り、誠意より解  
 九月十日より日備所に切替を行ふ事を得たが更に土日より  
 四日間三泊り本官 日備勤務署署長と共に基地内各職場を巡

外務省

察したか整理員の本朝の多めの混乱とあつたか概して  
順調に運営されたり各フオアも熱意を以て頗る協力的  
なりと見て感激した次第である  
尚ほ詳細に整理員別信を以て中報告致す可きも右不取敢  
申す所迄

(本信寫送附送 終戦連絡中央事務局)

外務省

0079

辛便

寫

厚連秘第三三五号

昭和二十一年十月二十二日

終戦連絡中央事務局厚木出張所

所長 今井重夫

終戦連絡中央事務局

總裁 吉田茂 殿

基地部隊移動状況報告の件

九月三十日附厚連秘第二二。跡地信に關し  
十一月十二日 3rd Attack Group 全員横田に移動を了し  
た。尚此。クォーターには11/30 1/80 Const.  
Group (Col. Weimer) 麾下。43rd Const. Bn (Maj.

外務省

0080

England) 以来、滑走路増設に當る趣であり、  
 Heavy Equipment School は十月十五日を古屋に移  
 動を完了し、  
 3446 Truck Co. 及 610 Q.M. Post Co. (何れも黒人部隊  
 約四五六百名を本月初旬来り、基地内にて訓練を要  
 せし居るが更に近しく白人 Training 部隊五百名未駐  
 の由あり。  
 尚本月十四日 P.M. Capt. Ryan に面會せ、折々第五空軍  
 は全部引揚ぐることなる横田基地の detachment 一  
 依然 Nuttal 司令官居残り、本部隊より 2nd Air  
 Service Group の一部七十名留まり Base H.Q. の把握に  
 此處に 2nd Army の Replacement Training Centre が同  
 居し、滑走路西側兵舎を使用するに由るなり、管内諸

外務省

あり右 Training Centre の司令官は Lt. Colonel Durham  
 副官 Maj. Shepton, Personnel Officer Capt. Dean 以下  
 Post Engineer 等あり Capt. Drake, Pursuit Marshal 等あり  
 Maj. Hand となつて、  
 仍て取敢へず本日十一日復本官舎内に第八軍中隊部を  
 非公式に招待し、歓談をなし十三日は箱根十國峠(熱  
 海)ドライブを共にし、  
 一其他の移動、予定のもの留まることなつた部隊は  
 Weather Station 及 Air Communication の二あり、  
 尚十六日には各在座より空路、第五空軍司令部より  
 少将外三将官基地全般に於り視察となつた。

外務省